

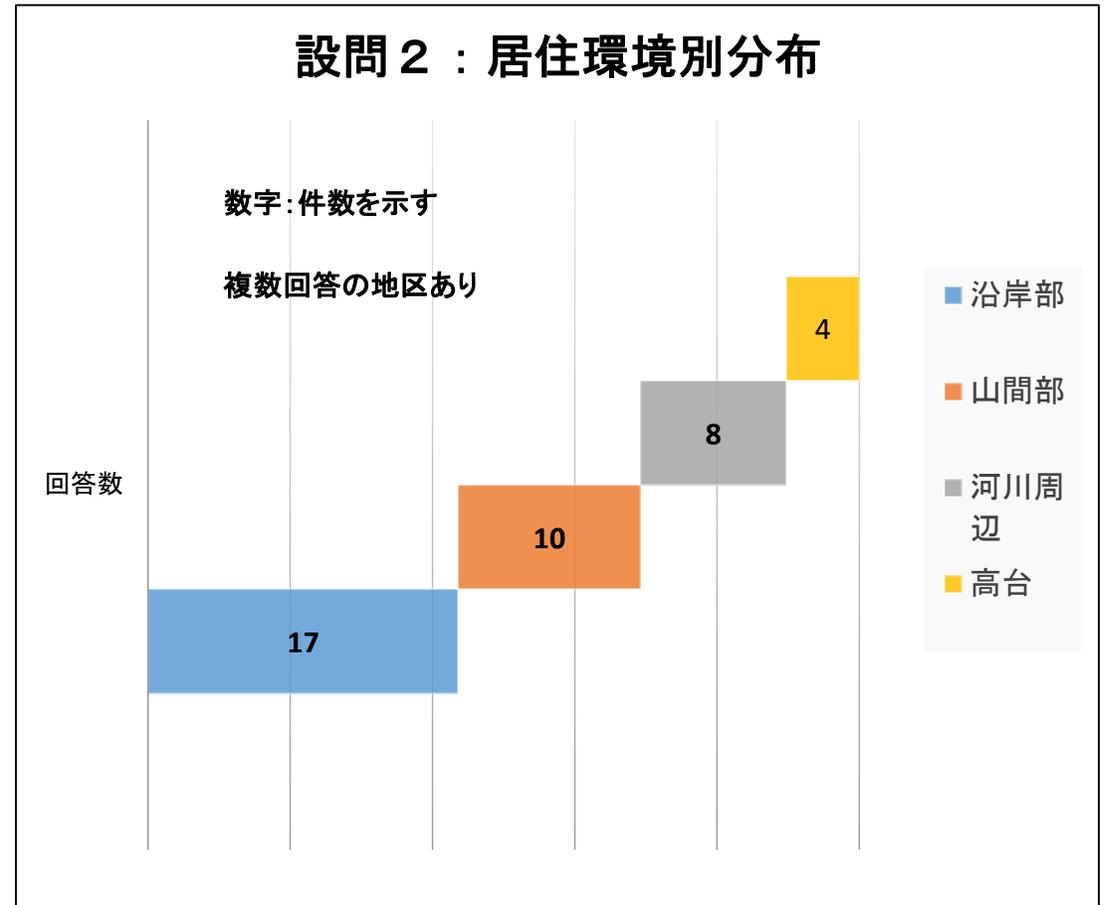
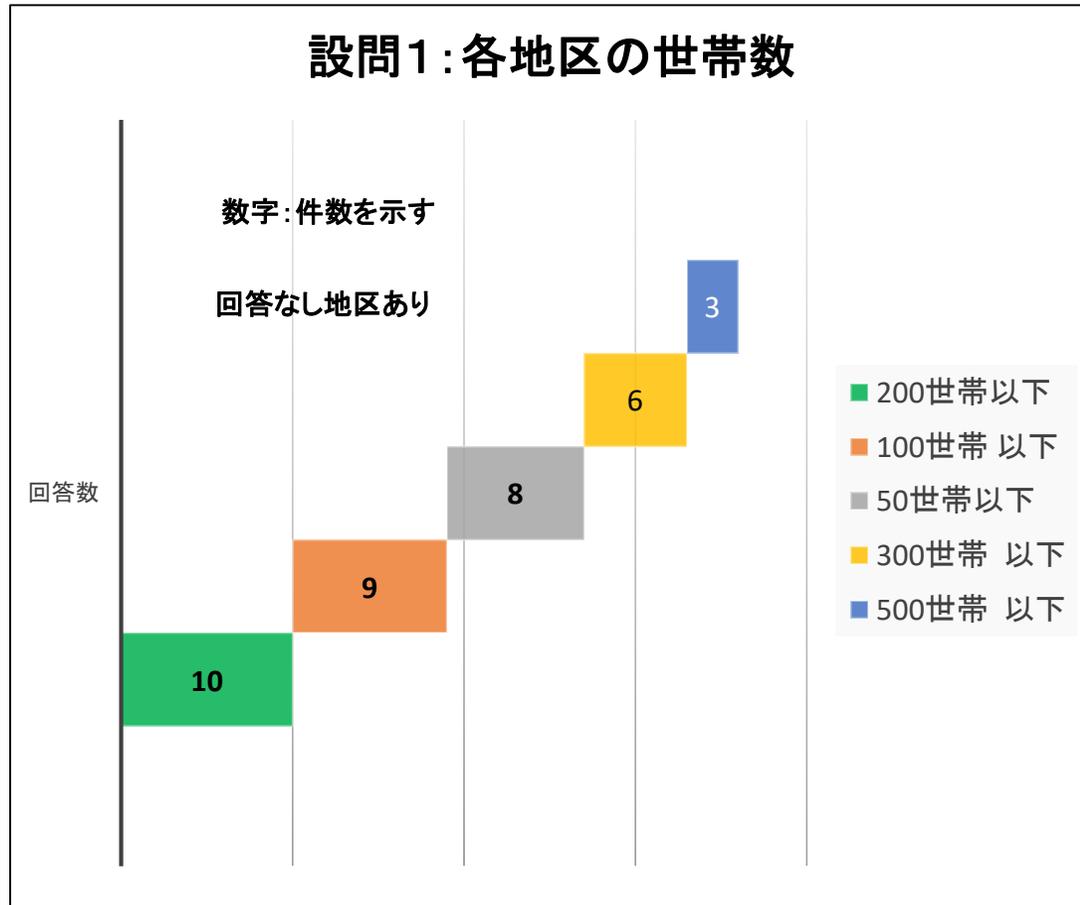
# 門川町議会防災アンケート調査結果について

区分	自治会数	回答数	回収率
門川町	41	37	90.2%

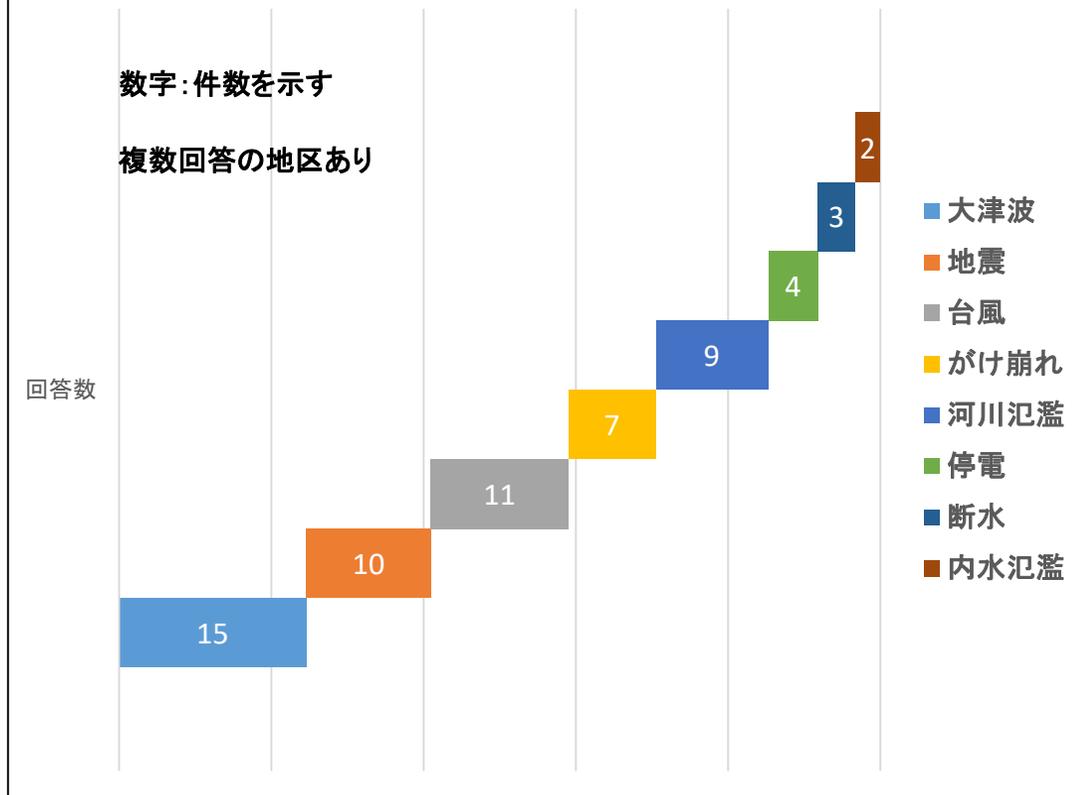
本調査は総務財政厚生常任委員会で作成し、行政とも擦り合わせを行い、各区長様に、アンケート調査のご協力をお願いして、回答していただいたものです。区長様のご協力に感謝申し上げます。

アンケート調査で得られた結果を分析し、門川町の防災対策の現状をまとめたものです。

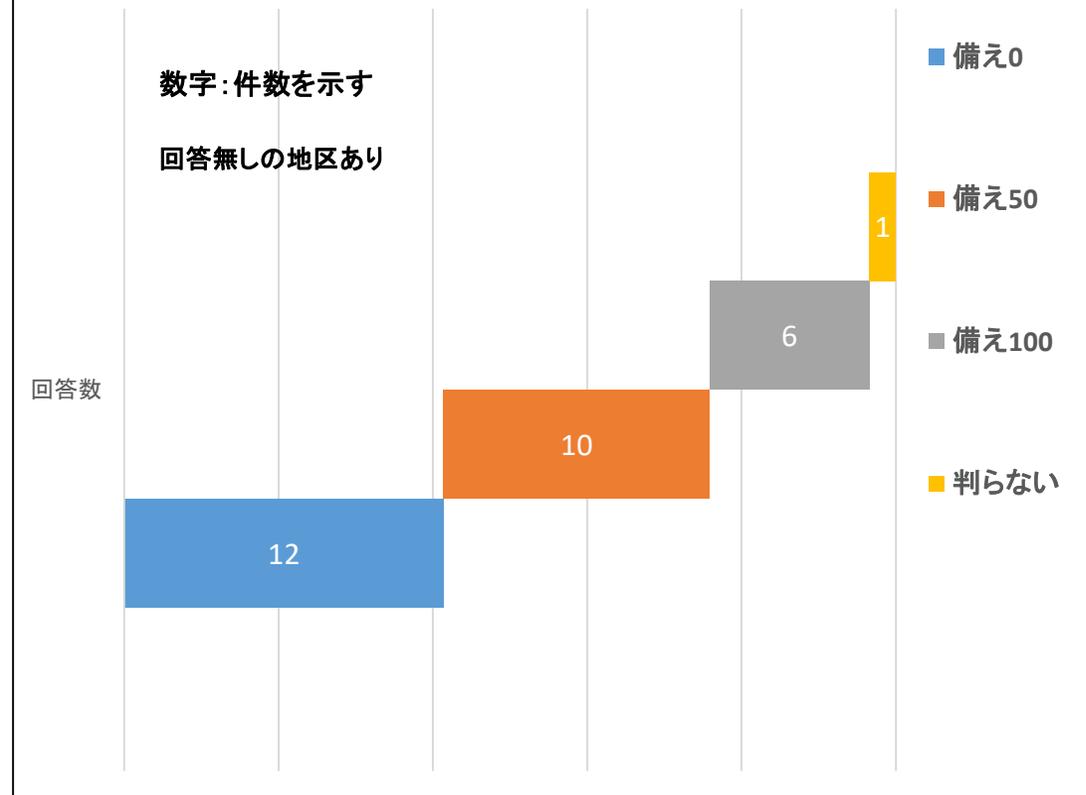
# 門川町防災アンケート調査結果



### 設問3: 心配している自然災害



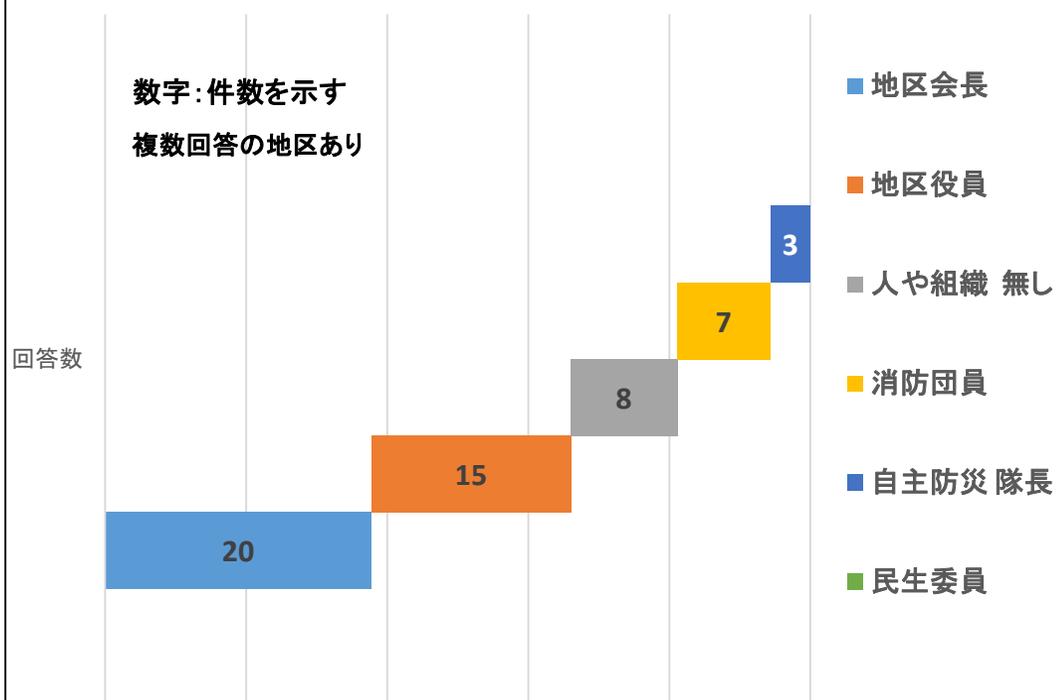
### 設問4: 命や財産を守るための備え



・町全体での心配な災害は**大津波、地震、台風**である。  
二次災害として**がけ崩れ、河川氾濫、停電、断水**である。  
居住環境別では山間部地区は台風、河川氾濫、がけ崩れ。  
高台地域ではがけ崩れ、台風、停電、断水。河川周辺地区では河川氾濫、大津波。沿岸地区では大津波、地震。  
との回答である。これらに備える対策が求められる。

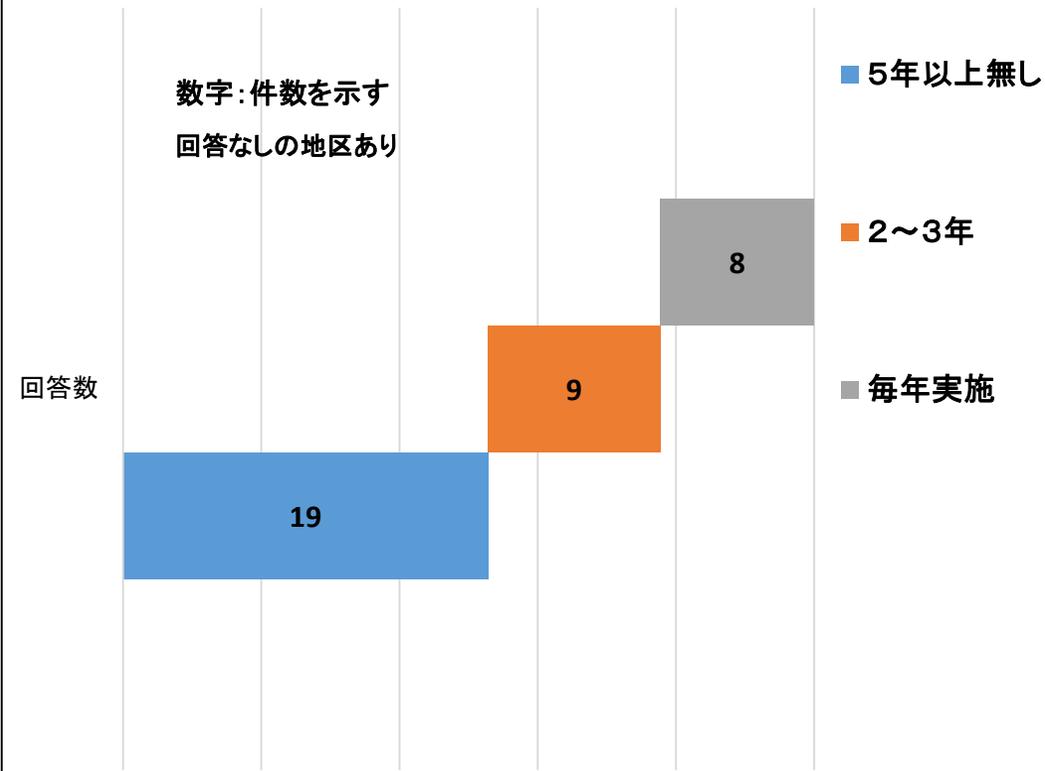
・「自分たちの命や財産を守る対策を講じてる人の割合」の問いについては、備え0%が12地区、備え50%が10地区、備え100%が6地区の回答であった。  
命や財産を守る備えをしてない人が多くいる事が判った。  
備えに関する啓発活動が必要である。

### 設問5: 防災活動の主導者



・「地区防災活動での主導的役割を果たしているのは」の問については、**地区会長が20地区**、地区役員が15地区、主導的な役割を果たしている人や組織はないが8地区、消防団が7地区、自主防災隊長が3地区であった。自主防災隊組織での地区防災活動が行われていない事が判った。

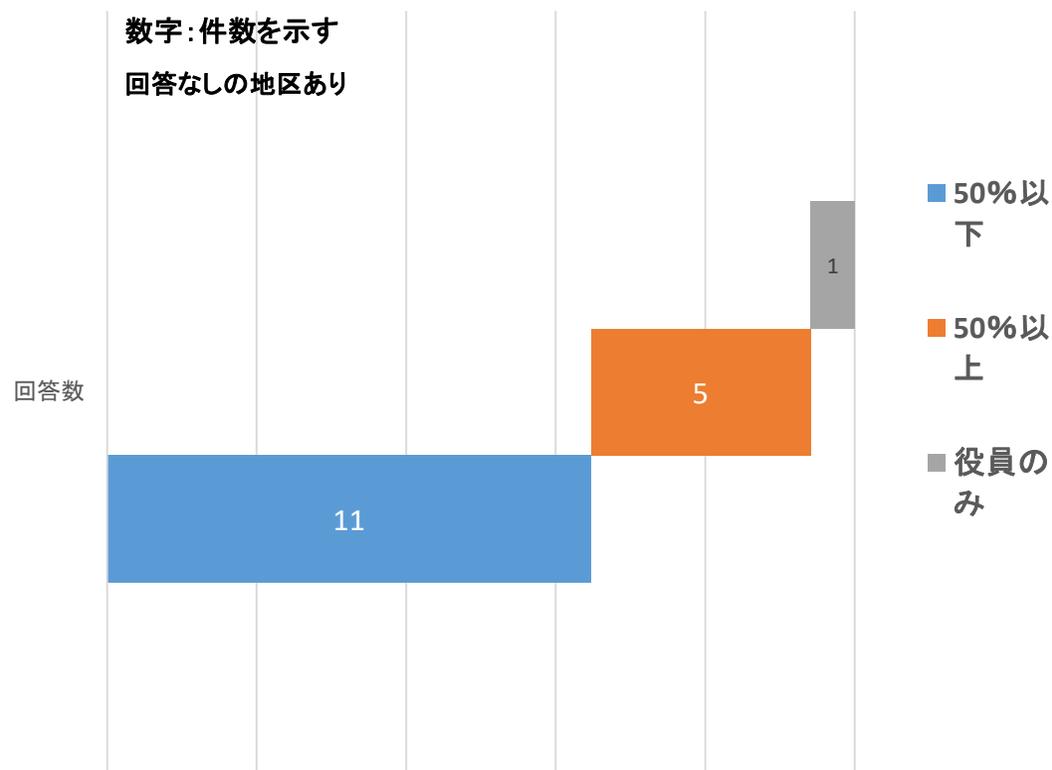
### 設問6: 地区開催防災訓練頻度



・「地区防災訓練の頻度」の問いについては、毎年実施は8地区、**5年以上無しは19地区**、2~3年以上無しは9地区であった。地区防災訓練が5年以上が行われていない地区が多いことが判った。防災意識の向上のためにも訓練頻度の見直しが問われている。

## 設問7：防災訓練参加率

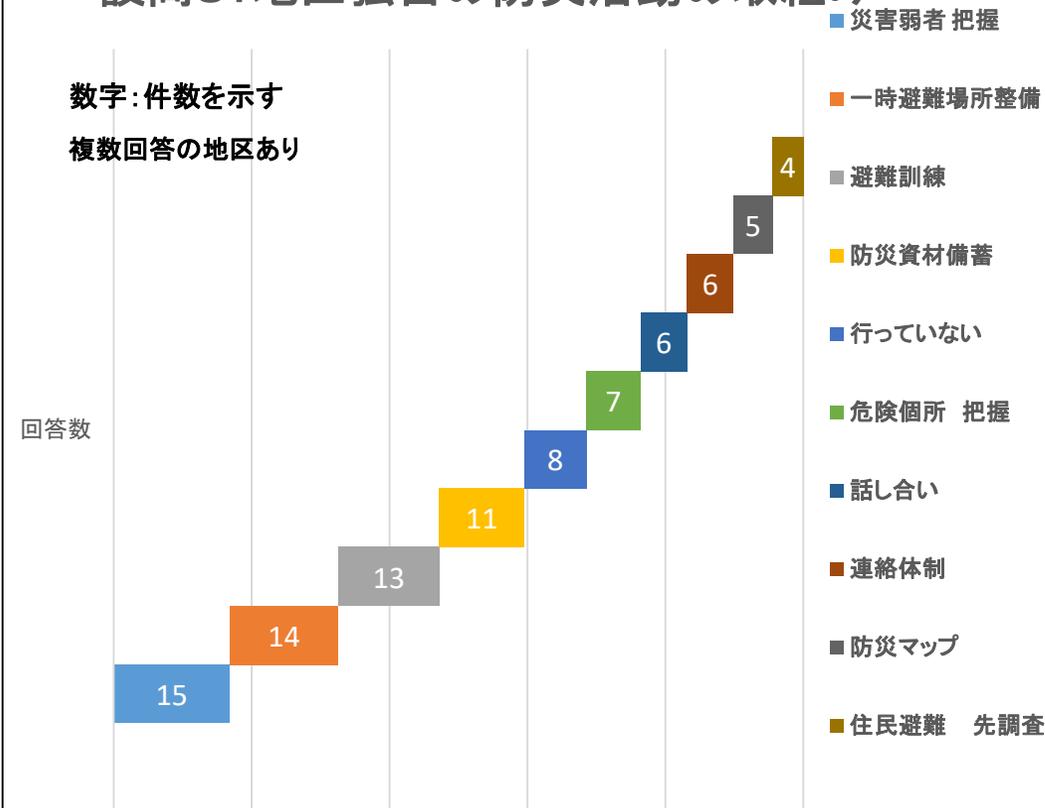
数字：件数を示す  
回答なしの地区あり



- ・「防災訓練実施地区に防災訓練参加者」の問いについては、参加者50%以下が11地区、50%以上が5地区であった。参加者が少ないのが危惧される。参加率を高める工夫が必要である。

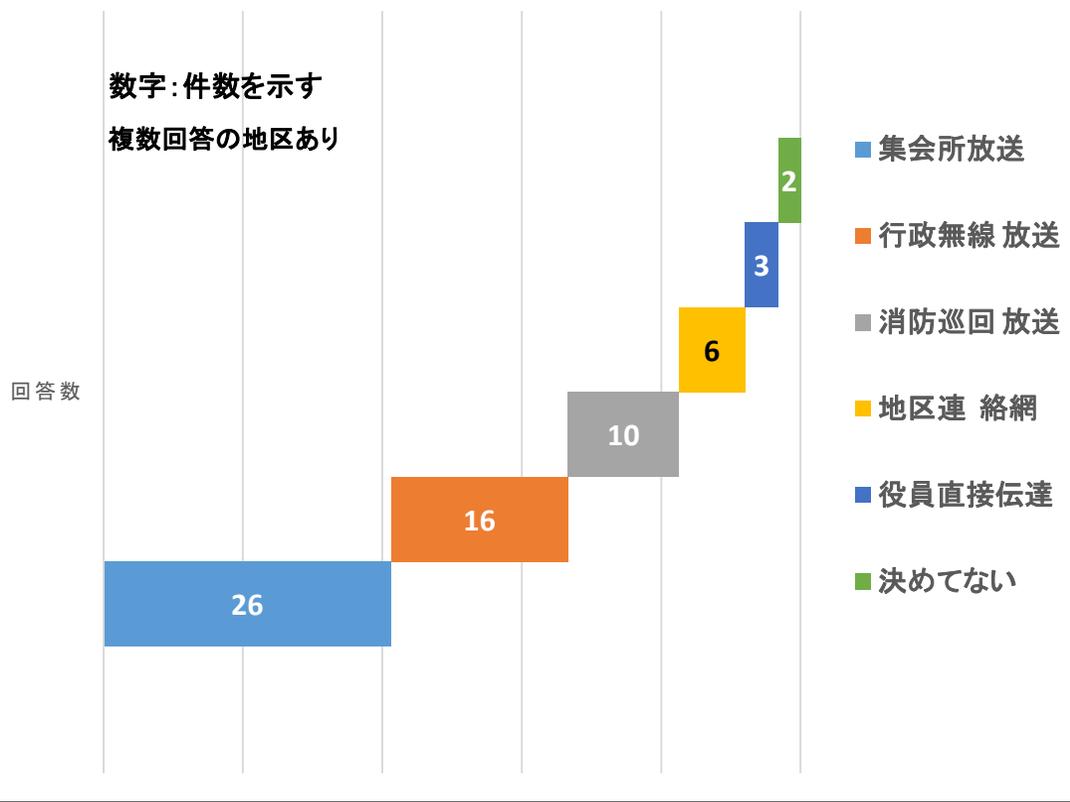
## 設問8：地区独自の防災活動の取組み

数字：件数を示す  
複数回答の地区あり



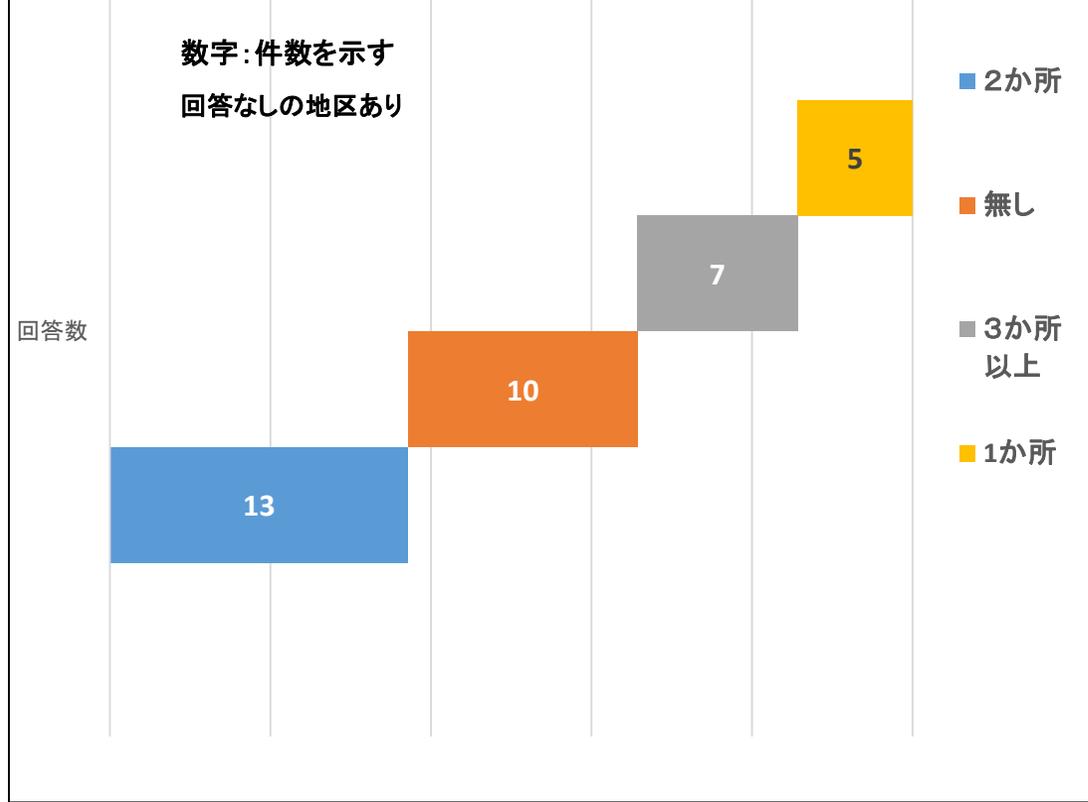
- ・「地区独自の防災対策・活動の取り組み」の問いについては、地区内災害弱者把握が15地区、一時避難場所整備が14地区、避難訓練が13地区、防災資材備蓄が11地区等である。ハード事業整備や災害避難弱者対策に各地区で取り組んでいる。

### 設問9: 緊急時の情報伝達手段



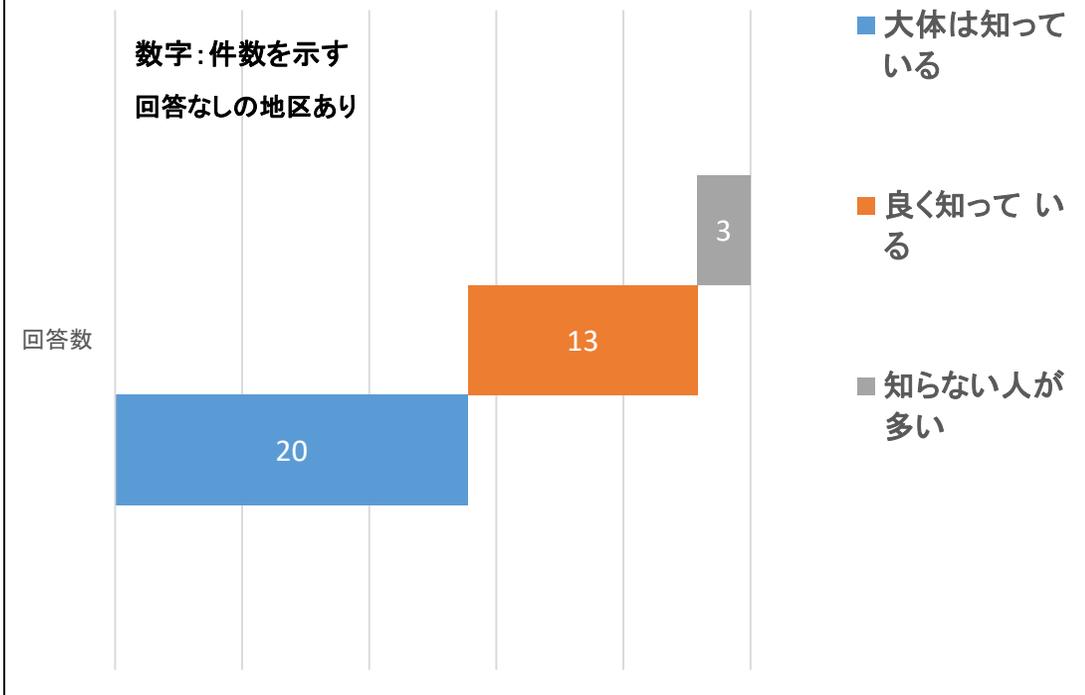
・「緊急時に住民に一斉に情報を伝える手段」の問いについては、**集会所の屋外放送26地区**、行政無線放送16地区、消防巡回放送10地区等である。緊急時に住民に知らせる主要な伝達手段は集会所放送が多い。

### 設問10: 地区整備の一時避難場所数



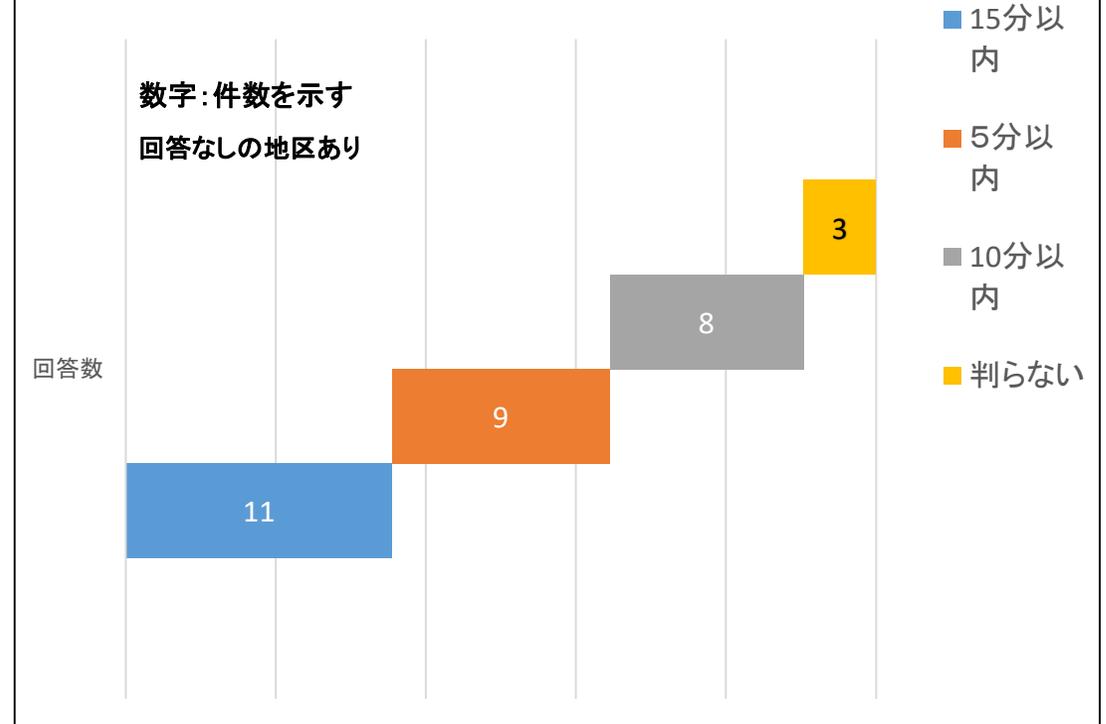
・「地区で整備している津波避難所が何か所あるか」の問いについては、整備無しが10地区、整備2か所が13地区、整備3か所以上が7地区、整備1か所が5地区であった。  
自治体活動で頑張って整備を進めてきた事が判る。

### 設問11: 地区整備の避難場所を地区民は知っていますか



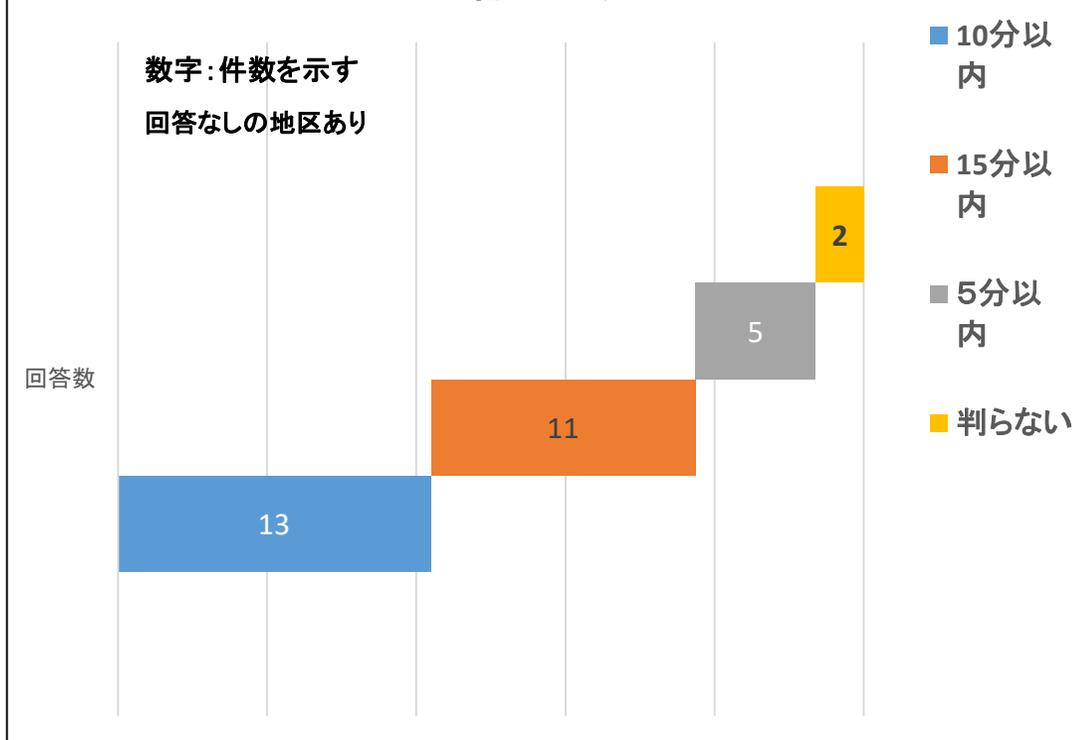
- 「地区が整備した避難場所を知っているか」の問いについては、大体の人が知っているは20地区、良く知っているは13地区、知らない人が多いが3地区であった。防災訓練を通じて、周知を図っていく必要があるのでは。

### 設問12: 津波避難時、何分で家を出れますか



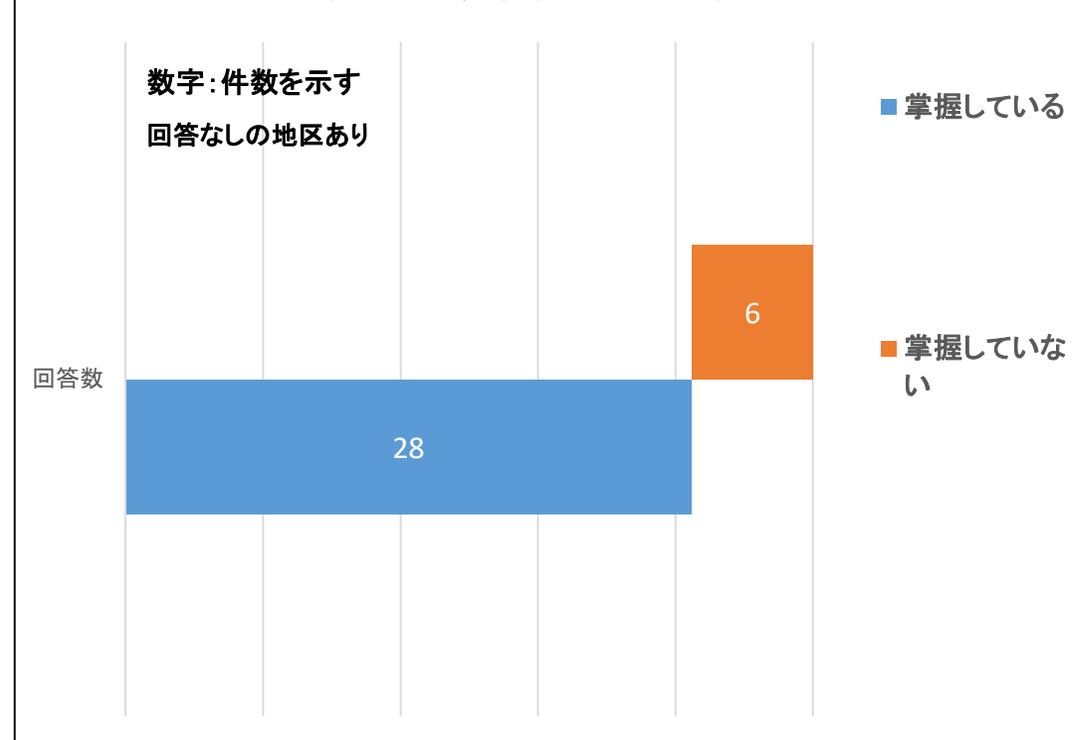
- 「津波避難発令されて、何分後に家を出られるか」の問いについては、**15分以内が11地区**、10分以内が8地区、5分以内が9地区であった。大地震発生後、3分間は揺れで動けない。避難に備えた心がけをしておかないと、早期避難は難しい。

### 設問13: 地区一時避難場所に何分で到着しますか



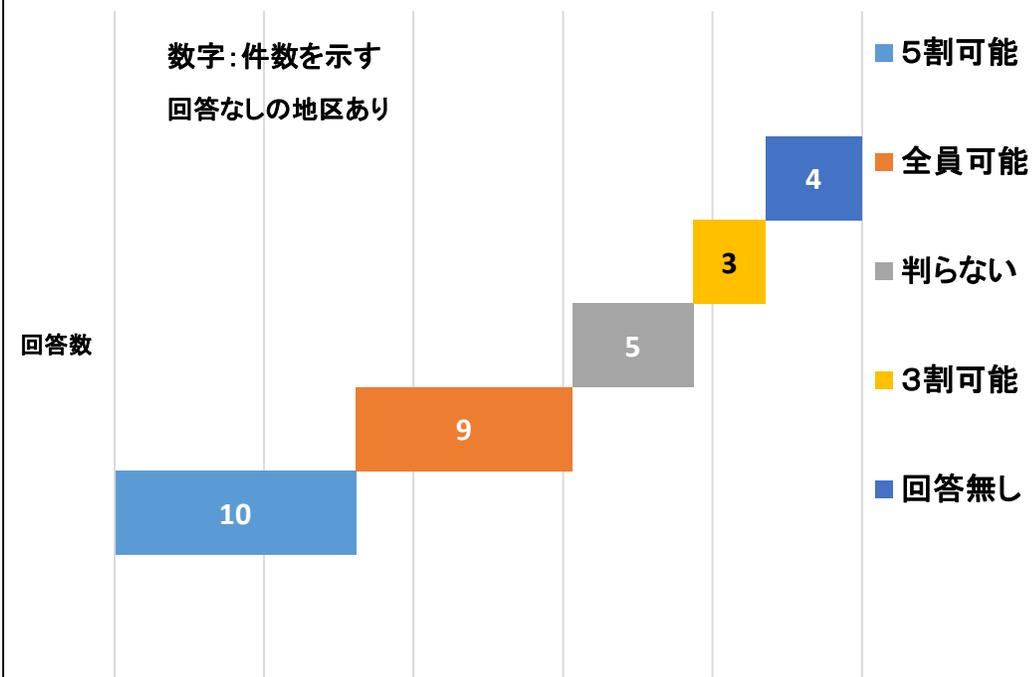
「地区避難場所に何分で到着するかを」の問いについては、10分以内が13地区、15分以内が11地区、5分以内が5地区である。家を出る時間と避難時間の総合時間で評価した場合、津波到達時間と比較して、不安の残る結果である。若者歩行速度1.34M/秒、高齢者1M/秒の歩行速度と発表されている。

### 設問14: 何処の避難場所に地区民が避難するか、掌握していますか



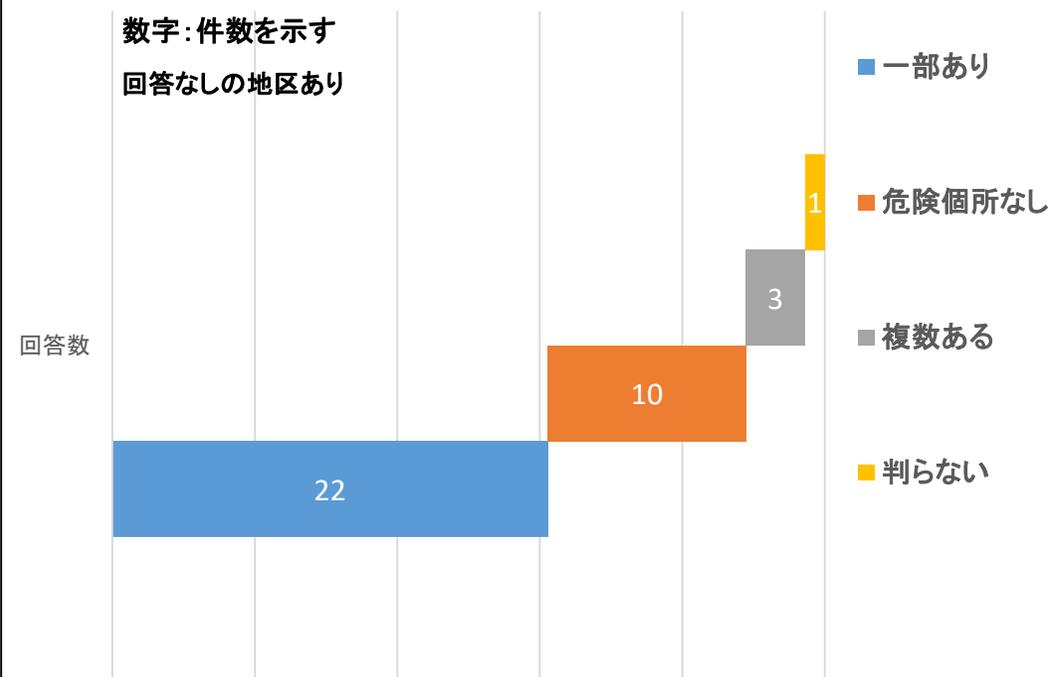
「地区民が何処の避難場所に避難するか、掌握されているかを」の問いについては、**掌握しているが28地区**。掌握していないが6地区であった。地区民の避難先掌握の地区が多い事が判った。

### 設問15: 地区避難場所は地区民が全員避難出来る広さを有していますか



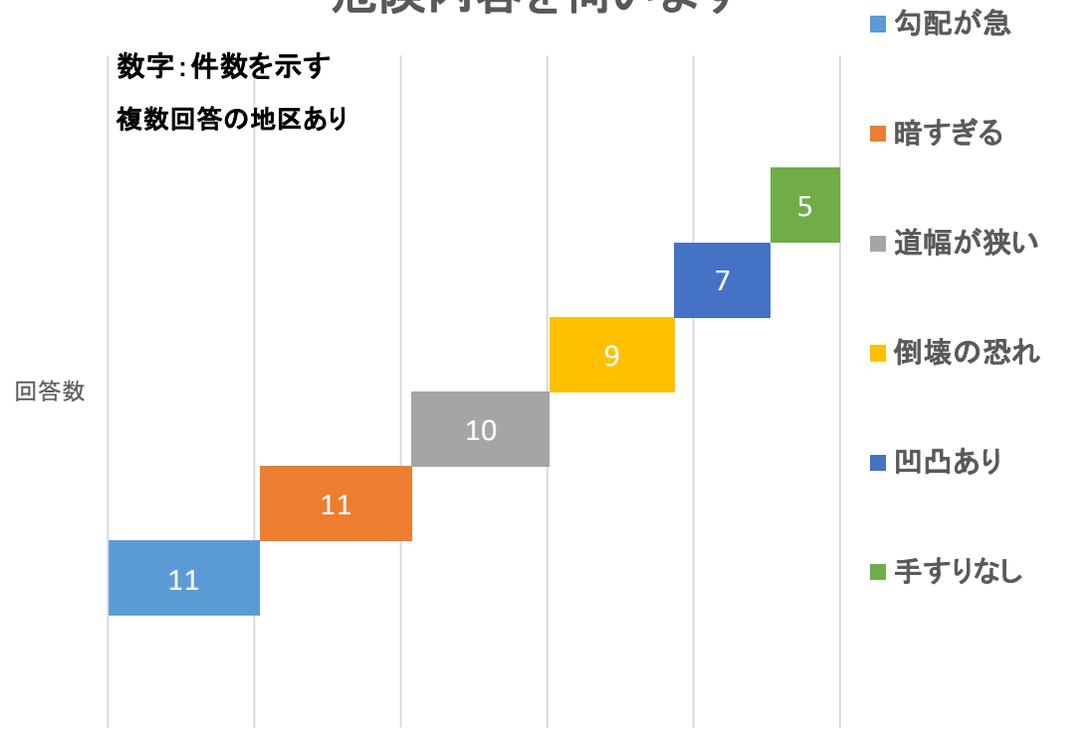
- ・「地区民全員が避難できる広さがあるか」の問いについては、**5割可能が10地区**、**全員可能が9地区**、**3割可能が3地区**、**判らない、回答無しが9地区**であった。地区整備の避難場所周知と十分な避難スペースの確保が必要ではないか。

### 設問16: 避難場所に行く道中に危険な箇所はありませんか



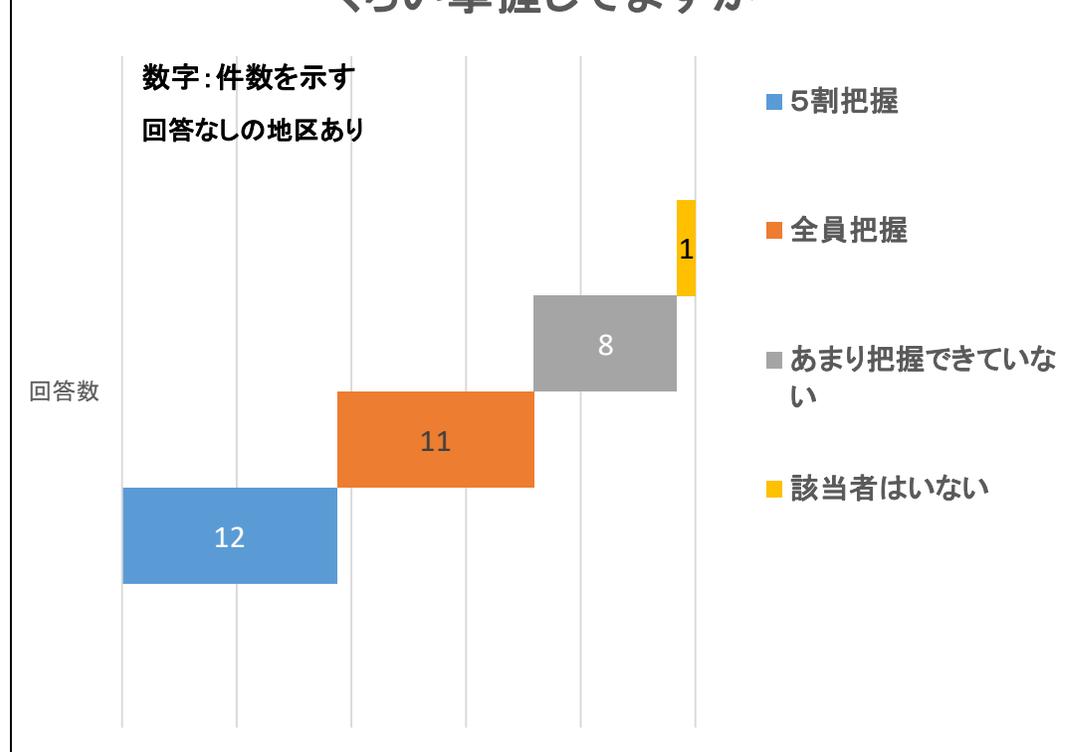
- ・「避難することになった時、避難場所に行く道中、危険な箇所はないか」の問いについては、**危険箇所があると答えた地区は25地区**、**危険箇所無しは10地区**である。危険箇所が多い事が判った。対応が急がれる

### 設問17: 危険個所があると答えた方に 危険内容を伺います



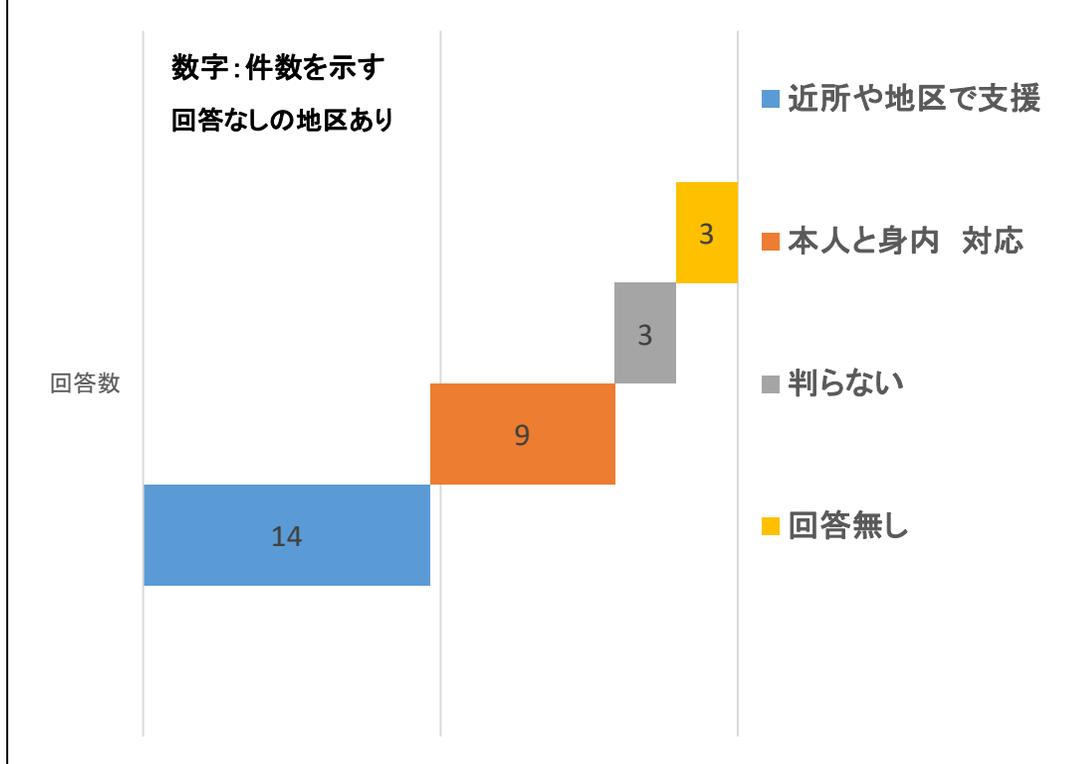
- ・「避難場所に行く道中の危険個所」の問いについては、勾配が急である11地区、夜間は暗すぎる11地区、道幅が狭い10地区、構造物倒壊の恐れ9地区、凹凸あり7地区等である。少しでも早く避難できる、危険個所の早期整備が求められる。

### 設問18: 自力で避難できない方をどの くらい把握していますか



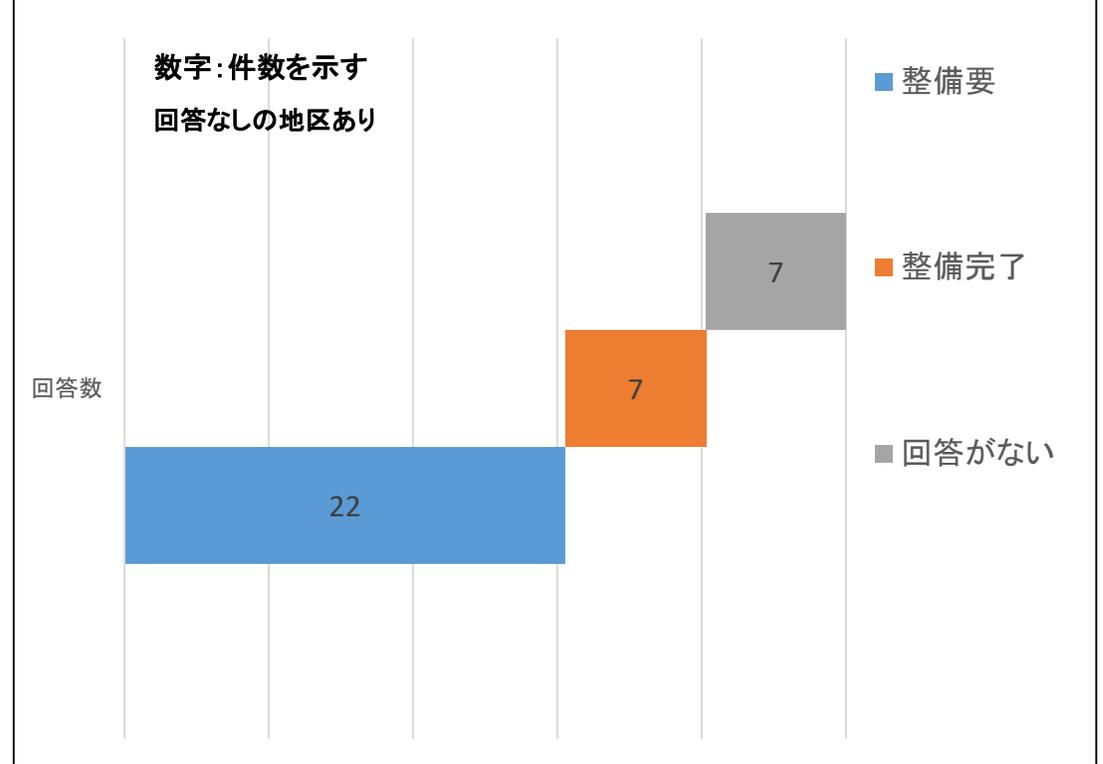
- ・「区内に自力避難できない人がどの程度いるかの把握状況」の問いについては、5割把握は12地区、全員把握は11地区、あまり把握できていないは8地区であった。該当者なしは1地区であった。避難支援の取り組みは把握が必須だが、把握が遅れているようである。

### 設問19: 自力で避難できない人の安否確認や避難支援は



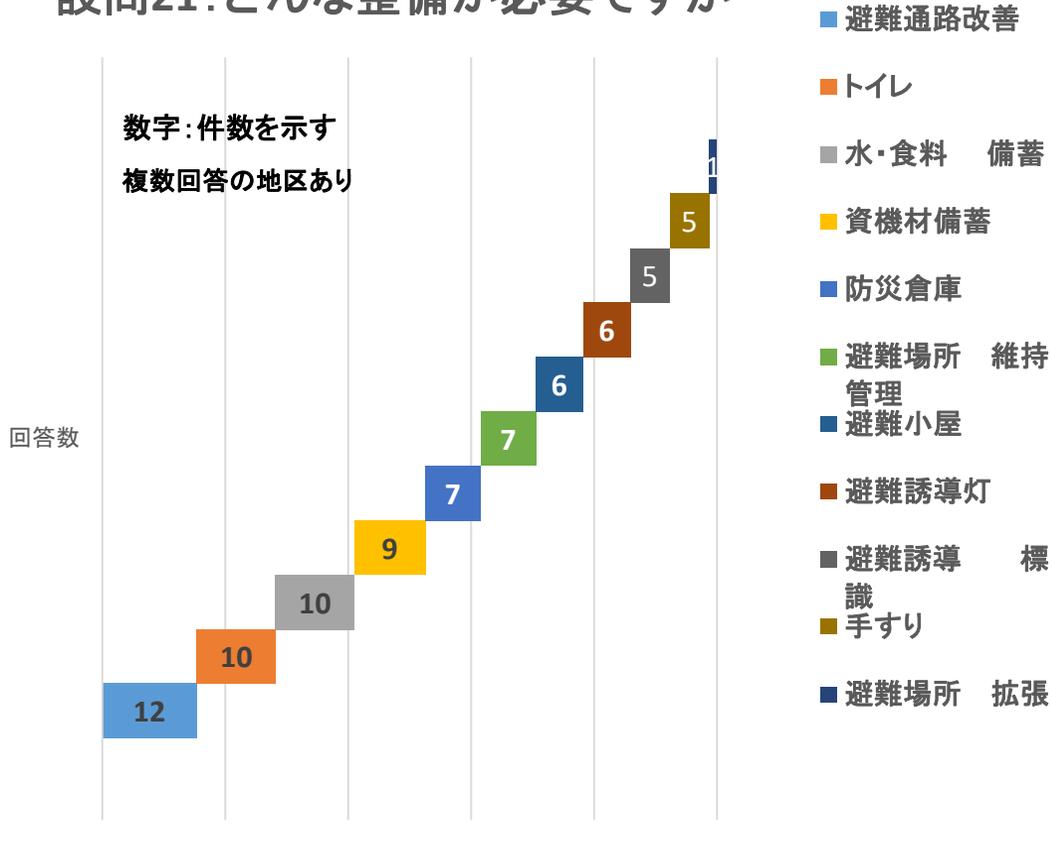
・「災害が起きたとき自力で避難できない人の安否確認や避難支援をどのように検討されたのか」の問いについては、**近所や地区で対応が14地区**、本人と身内で対応が9地区、判らない、回答無しが3地区であった。どのように地区として対応していくか、対応に苦慮している事が判る。

### 設問20: 地区整備の避難場所や避難通路の整備状況は



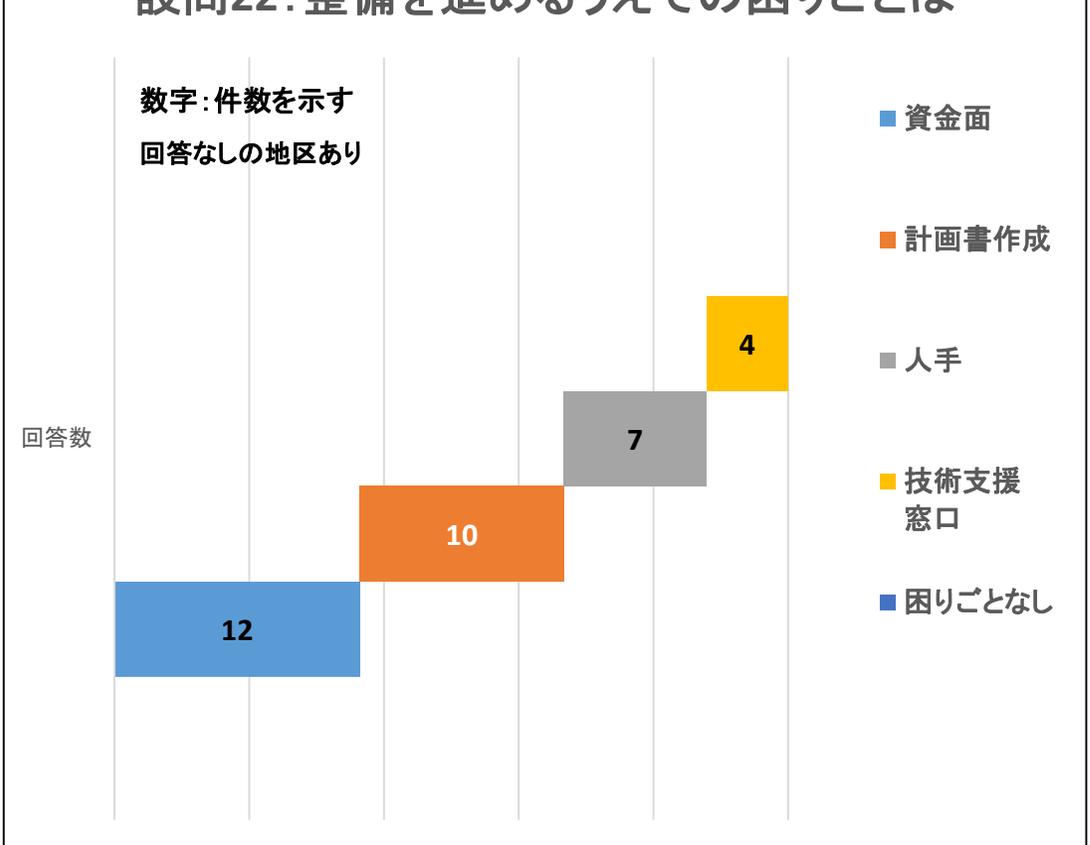
・「地区での緊急一時避難場所や避難通路の整備状況」の問いについては、**整備中が22地区**、整備完了が7地区、回答無しは7地区であった。多くの地区で整備に取り組んでいるが、整備を加速化することが課題である。

## 設問21: どんな整備が必要ですか

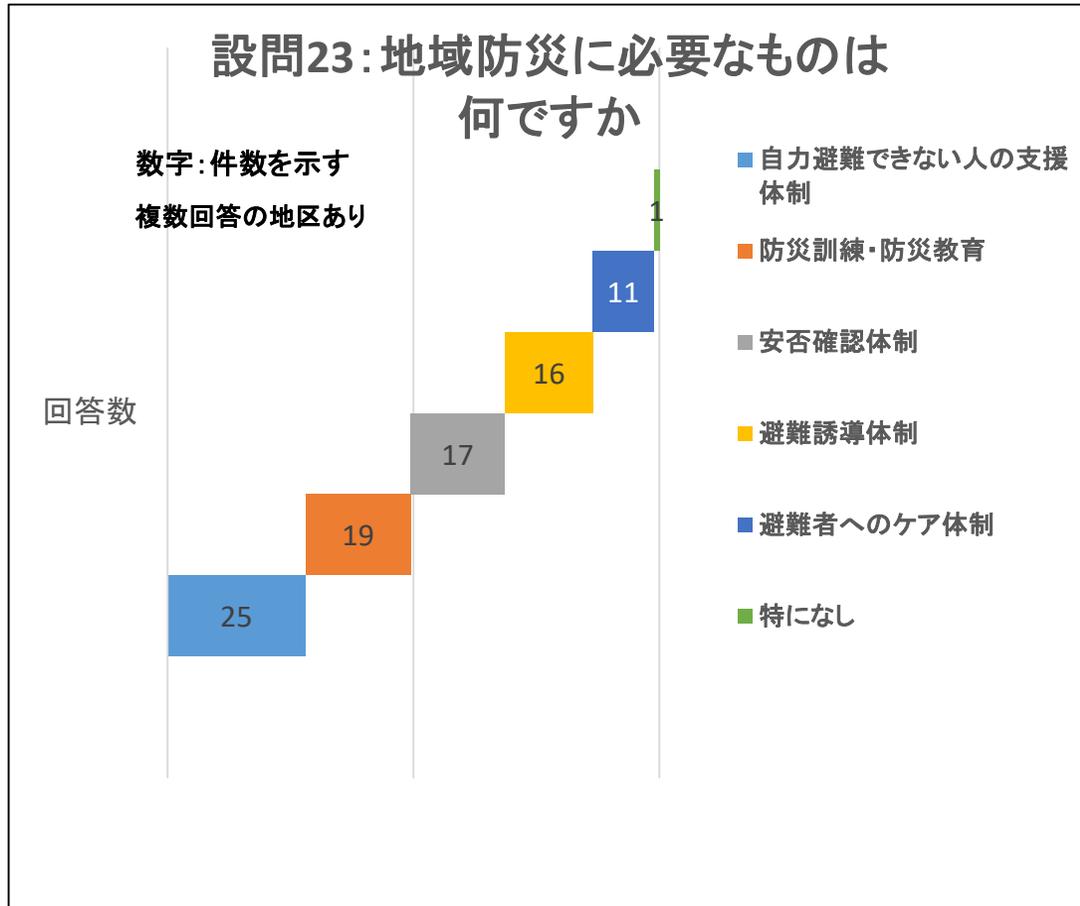


- 「どんな整備が必要か」の問いについては、**避難通路改善が12地区**、避難場所にトイレ設置が10地区、水・食料備蓄が10地区、資機材整備が9地区、防災倉庫設置が7地区、避難通路の維持管理が7地区等であった。  
今後の整備内容が良く判る。

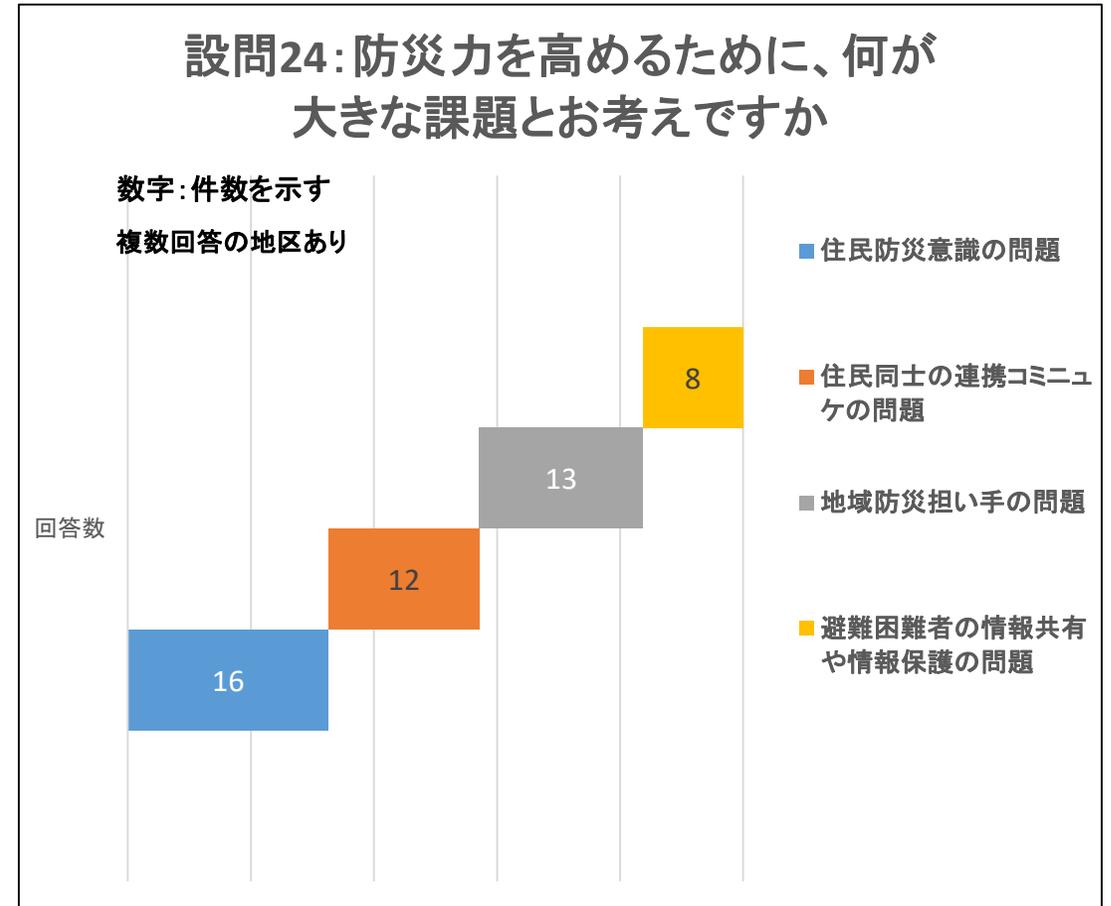
## 設問22: 整備を進めるうえでの困りごとは



- 「地区で防災関連の整備を進める上での困りごと」の問いについては、**資金面、整備計画書作成、作業人員の不足、整備上の技術支援、相談窓口等**であった。  
この希望をかなえる事で、整備が加速的に進む事が期待できる。

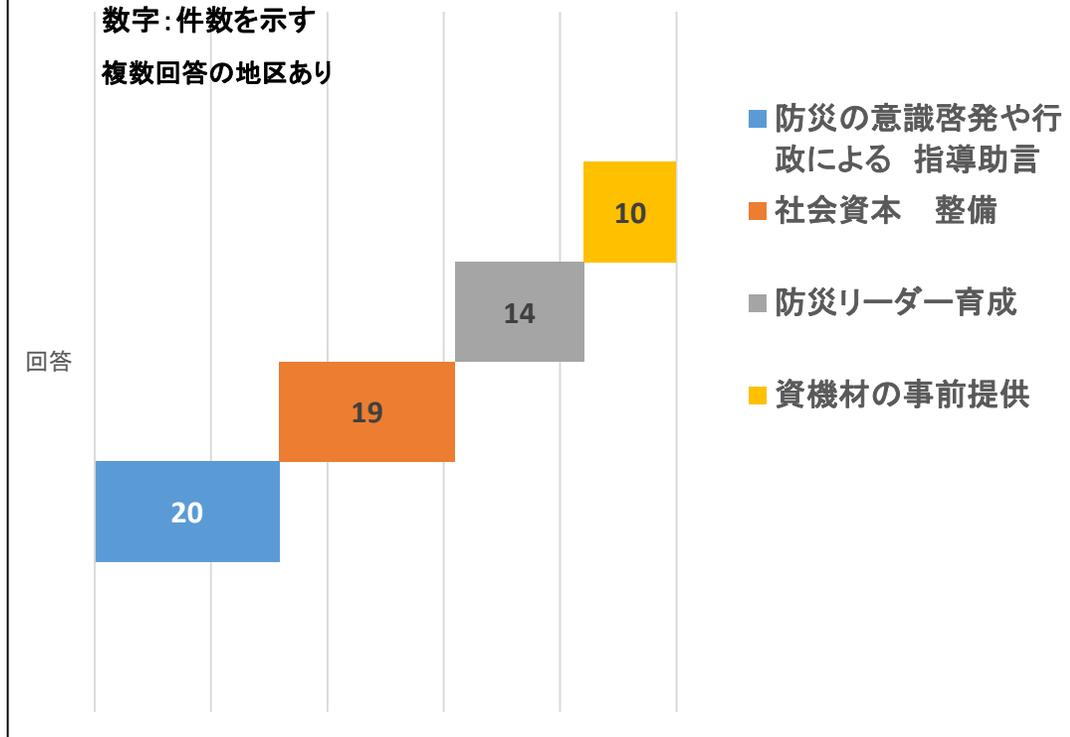


・「地域防災にとって必要だと思われること」の問いについては、**自力で避難できない人の避難支援体制構築が25地区**、防災訓練実施と防災教育が19地区、地区民の安否確認体制構築が17地区、避難誘導體制構築が16地区等であった。  
重い課題であるが、具体策の検討を急ぐべきである。



・「地区の防災力を高めるために、何が最も大きな課題」かの問いについては、**住民の防災に対する意識の問題が16地区**、住民同士の連携やコミュニケーションの問題が12地区、地域防災の担い手の問題が13地区等である。  
地区の防災力を高める大きな課題である。

## 設問25: どのような防災対策を望まれますか



- ・「どのような防災対策を望まれますか」の問いについては、住民に対する**防災の意識啓発や行政による指導助言が20地区**、災害に備えた社会資本整備が19地区、防災力強化に向けた防災リーダーの育成が14地区、災害時に必要となる資機材の事前提供が10地区であった。解決に向けた取組みの検討が必要である。

# 門川町の防災対策の現状と課題

- 門川町の危険な自然災害は大津波、地震、台風、豪雨である。
- 二次災害は河川氾濫、内水氾濫、山崩れ、停電、断水である。
  
- 自然災害に備えた避難路や施設等の整備が遅れている。
- 津波到着までに避難場所へ到着できない人が多くいる。
- 自力で避難できない人が多くいる。
- 住民の防災意識の改善と取り組みが求められている。

※この現状と課題を参考に、執行と協議を進めていきたいと思いをします。